

第8回 ふくろうふれ愛まつり 秋晴れの中、1,200人を超える来場者

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員 会

洲本市中川原町中川原 28番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
メール
info@hyoufuku.main.jp



▲竹内洲本市長をはじめ、ご来賓の方々、主催者と一緒にくす玉割りでお祝い

10月27日「第8回ふれ愛まつり」は久しぶりに穏やかな秋晴れの中、盛大に開催することができました。今年も、中川原ふれあいセンターと2か所同時開催で行い、一二〇〇人を超える参加で盛大なまつりとなりました。

手話芝居 黒崎時安さんが熱演

今年の入居者劇は「その火、飛び越えて ふくろうのメモリー」をテーマに黒崎時安さんの波乱万丈な半生を基に、淡路ふくろうの郷が開所し平穩に暮らす日々までを大矢施設長が脚本を作成し、岐阜のろう劇団「いぶき」と共演で実現しました。

黒崎さんは劇に出演するのは初めての経験です。当日が近くなり、小道具を相談にいつても「あとでいい！」と一蹴され、突然の主役に戸惑っておられるかと思っていました。いつのまにか自分で準備されていて、実は張り切っておられたようでした。



▲舞台上で熱演を披露する黒崎さん

厚生労働省は、部会で介護保険制度改正を審議している。その内容は、①要支援1・2は、保険給付の対象から原則として外す。②サービスは機能回復訓練に制限。③利用料を所得により2倍に。④低所得者でも預貯金などあれば居住・食費を徴収など。気になる内容ばかり。詳細は次号で。

黒崎さんは劇を振り返って、「メイクをされてびっくりした、本格的だなとドキドキしていた」「舞台上上がったらたくさんのお客様が劇を見てくれて、

誇らしい気持ちになった」「劇が終わるとメイクをしているから目立つのか、お客さんが次々に話しかけてくれて『良かった』と言ってもらえて嬉しかった」とニコニコしながら語ってくれました。

他の入居者さんは出番が少なかったのですが、舞台上上がることをとても楽しみにされておられました。集合時間のずいぶん前から、舞台の袖に集まられ、今か今かと出番を待っておられたことが、とても印象的でした。舞台の最中も袖から「まだ？」「いまどのシーン？」と覗き込み高揚が抑えきれないようでした。

黒崎さんのように、ふくろうの郷は様々な人生を抱えた入居者さんたちが共に暮らしています。来年もまたどなたかの人生を皆さんにお披露目できたらいいなと思っています。

(舞台担当：中西・小林)

《感謝とお詫び》

予想を超える皆様のふれ愛まつりへのご参加、誠にありがとうございました。準備していた「振る舞い」「パンフレット」の数が足りなくなり、ご来場いただいた皆様にお届けできず、大変申し訳ございませんでした。
(担当：足立)

舞台上に模擬店と大賑わい 第8回ふくろうふれ愛まつり

《舞台》

今年の舞台は絶好の行楽日和の中、和太鼓に歌、踊り、そして入居者の劇と盛りだくさんの内容で楽しませて頂きました。

9組の団体がご参加下さいましたが、中でも中川原小学校の生徒さんのダンスは、小さな身体をめいっぱい使って元気よく飛んだり跳ねたり、見ているこちらまで一緒に踊りたくなるような『女々しくて』でした。

先生は床が抜けないか心配しておられました。床は無事抜けることなく次の演目、手話教室で学んだ手話付きの童謡『ふるさと』を披露され、とてもほのぼのとした気持ちになりました。自己紹介の手話も、『ふるさと』の手話も皆さん本当にお上手でした。

舞台の準備、設営、機材の搬入、片づけ等々、地域の皆様のご協力なしでは成しえませんでした。

お忙しい中、連日のご支援・ご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

(担当：船越・谷口愛・北野)



▲元気よく「女々しくて」を踊ってくれた中川原小学校の舞台発表

第3回B級グルメ大会 結果報告

- 1.神戸ろう協垂水支部
- 2.ふれあいセンター
- 3.豊岡ろうあ協会
- 4.兵通研東播地域班
- 5.兵聴協青年部

《模擬店》

今年も第3回B級グルメ大会が開催され、各団体が自慢の腕を披露してくださいました。どこも行列ができており、「おいしい」と好評だったようです。

第3回B級グルメ大会受賞団体から喜びのコメントです！

(担当：竹原寛・高田)

★1位(グランプリ)

神戸ろう協垂水支部

「千子焼き」

昨年に引き続き、グランプリの受賞を嬉しく思います。あつと言う間になくなってしまい、買えなかった方に申し訳なかつたです。来年もグランプリ受賞できるように頑張りたいと思います。

★2位

ふれあいセンター

「鶏団子スープ」

「玉ねぎステーキ」

今日はいつもの努力が発揮できました。前日、そして当日は朝の七時から準備しました。玉ねぎステーキと鶏団子スープは好評でした。第2弾のスープで作ったラーメンも好評でした。ラーメンを作っているときに、2位受賞と聞いてびっくりしました。努力の成果が出たと思えます。来年はB級グルメ大会の淡路代表になりたいです。

★3位

豊岡ろうあ協会

「からあげ」

準備したから揚げがあつという間になくなってしまい、そのあときてくださった方には申し訳なかつたです。来年はもっとたくさん持つてくるので、楽しみにしてくださいね。

《ふれあいセンター》

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターでは昨年に続き、ふれ愛まつりに合わせて開所し、様々な催し物を開催しました。

館外では地域の方からの協力による「バルーンアート」三

原高校から科学部の生徒さんと一緒に「巨大シャボン玉」を作ったり、ご当地キャラによるお出迎えの他、スーパーボールすくい、ボーリングなどの「ミニゲームコーナー」で子どもから大人まで遊んでいただきました。

「バルーンアート」で作られた「剣」を片手に巨大シャボン玉を追いかけ、割って遊ぶ子どもたちや、ご当地キャラを見ると老若男女問わずみなさん笑顔になって写真を撮っていただきました。

館内では中川原保育所、小学校、地域の方からお借りした絵やパッチワークを展示して皆様に観ていただいたり、「カイロプラクティック」「ピザ作り体験教室」、「フリーマーケット」では地域の皆様からご提供いただいた野菜や手作り作品を販売しました。

来年も多くの皆様に楽しんでいただけるように取り組みたいと思います。今回ご来場いただいた皆様、スタッフとして参加いただきました皆様、ありがとうございました。

(担当：神代)



▲2年連続のグランプリ(神戸ろう協垂水支部)

平成25年度七施設利用者交流会 in 福岡

同じ境遇の入居者と

気持ちを分かち合うことの出来た2日間

10月17日～18日に入居者8人と職員4人で行ってきました。濱田たきふさんと、中村實さんが初参加となりました。昼食は

新神戸駅で駅弁を買い、新幹線に乗って食べました。景色を見ながらの食事、美味しかったとのこと。ホテルにて夕食を頂きながら、他の施設の入所者達の紹介を聞きました。

名刺交換で楽しく交流

中村さんと濱田さんは、熱心に話を聞かれていました。そして入居者同士で名刺交換をしました。中村さんは、「結婚していいですか？いない？私も独り」独りであることが寂しいと話され、同じ境遇にある入居者と気持ちを分かち合っていました。ふくろうの郷から男性の参加が中村さんだけだったので、どれだけ心細かったことか、たくさん辛い気持ちを表現してくれました。

濱田さんは、「小さい時は聞かされていたけれど、病気で聞こえなくなりました。」と話されました。普段あまり自分のことを出さない濱田さんですが、この日は勇気を持って自分をアピールし、交流されていました。

ボール色当てゲームや、フラダ



ンスを楽しみました。普段あまり見ることもない、良い笑顔をされて楽しまれていました。

「温泉に入りたい！」とのこと。朝風呂になりましたが、立派な大浴場に行きました。足腰が弱く、温泉に入れると思っていなかったようで、とても喜ばれていました。

平和祈念館も見学

辛い体験と辛い思いが

平和記念館に行き、戦争当時の冷戦や服装などを見ました。戦争を実際に体験した方々にとつては、思い出したくない過去でもあるので、中村さんと濱田さんは悲しい辛い気持ちになってしまったようです。濱田さんは、戦



争で兄を亡くされたとのこと。しても会話が途切れないようで、「怖い、心配」と繰り返し私表情も和らいでいました。濱田（和田職員）に話されました。ほんとうに辛い体験と辛い思いの会話を楽しんだり、喧嘩をされたのだと、思い知らされました。

淡路ふくろうの郷では食事を残されることが多いのですが、中村さんも濱田さんもびっくりす郷からたくさん入居者が参加できるように朝・昼・晩共に食事をとられています。

中村さんは、職員との会話を楽しまれていました。話しても話

来年の開催地は京都です。車で行ける距離なので、ふくろうの郷からたくさん入居者が参加できるように朝・昼・晩共に食事をとられています。

（生活援助員：和田）

全国聴覚言語障害者社会福祉研究会にて

テーマ「特別養護老人ホームにおける摂食嚥下リハビリテーション」

11月9～10日に開かれる全「等、始めはなかなかリハビリを受けていただけませんでした。多くの職員と連携し、谷氏のテーマは「特別養護老人ホームにおける摂食嚥下リハビリテーション」です。

気持ちは尊重しながら工夫を重ねたことで、現在は舌の体操、アイスマッサージ、ソフト食のおやつを食べる、歯磨き、という一連のリハビリができるようになりました。

昨年からはリハビリをさせていた。谷氏は、現在胃を公表します。谷氏は、現在胃から栄養を摂っていますが、量であれば口から食べることができず。しかし、「あなたは医者さんじゃないからだめ」「アイスマッサージは赤ちゃんみたいで嫌

当日は、谷氏のリハビリが軌道に乗るまでの経緯や、多職種間の連携について詳しく発表する予定です。

（言語聴覚士：齋藤）

おのころの家



〒656-0025

洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F

TEL・FAX 0799-26-0956

和裁の技術を活かして



昨年5月、猫の小物を作った

古山初子さん(86)

子どもさんも嫁ぎ、ご主人と2人だけで暮らしておられました。「淡路ふくろうの郷ができた。煙仕事をするんだ。施設の回りには木を植えて四季折々に花を咲かせよう。」と熱く語っておられたご主人が淡路ふくろうの郷の開所直前に亡くなられ、初子さんはその後ずっと一人で暮らしておられました。

平成19年からおのころの家を利用され始めました。最初は週2〜3回の利用でしたが、今

は水曜日だけの利用となっております。

空襲が酷くなり淡路へ

神戸ろう学校で和裁の技術を身につけ、卒業した後は百貨店の縫い子をされていました。神戸の大丸などの注文を受けているところで働いておられましたが、空襲が激しくなったので仕事を辞めて淡路に帰ってこられました。

25才の時、結婚してずっと和裁の注文を受けてお仕事をされていきました。振袖等も縫ったとか、その裁縫の腕前は今も劣ることなく、おのころの家でも袋の仕末のまつりぬいや、刺し子等とてもきれいに仕上げられておられます。



25才の時の初子さん

姉弟大集合

おのころの家には、義妹、実妹、義弟、本人と4人揃って通っておられる時がありました



が、残念なことに今はおひとりになってしまいました。1週間一度、姉妹が集って、昔話をさっていたかどうかはわかりませんが、心強い場所だったのでないかと思えます。高齢になると誰も同じですが、古山さんも膝に痛みをもっておられますが、元気に利用されています。ご主人はじめご兄弟見守ってくださいようです。

娘さんも近くに住んでおられ、曾孫さんもおられます。今は頼もしいお孫さんと2人で暮らしておられます。いつまでもお元気で通っていただきたいです。(支援員 藤本)

おのころ屋



〒656-0025

洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月〜金 9:00〜18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

洲本レトロなまち 歩きに模擬店参加

チームプレーで二日目の3時過ぎには全て売り切ることができました。

皆さんは販売の合間に交代で並んでイチジクアイスを食べたり、淡路島ヌードルに30分並んだりと街歩きを楽しんだようです。

(職業指導員 岡本)



「まぼろしのデニッシュとーすと」販売

第30回

入場無料

共に生きるつどい

2013年11月16日(土) 10:30~15:00

一宮ふるさとセンター いざなぎ神宮前館号を上げてすぐ!

「障がいがある人もない人も「出会いの場」を一緒につくりますか?

午後1時50分~

講演:「発達障害のある人が自分らしく生きるために大切なこと」

講師:ひょうご発達障害者支援センター

「クローバー」相談支援員・臨床心理士 式部 陽子氏



▲ 黒崎さんは、ふくろうの郷入所後、通研淡路班からの要望がきっかけで、壮絶な過去について語りはじめた。関心を寄せてもらうこと、共に考えてくれる人のいることが、人を生かしていく、と大矢氏。

☆気兼ねなくが一番☆ センター行事



みかん狩りと交流

難聴者ミニ交流会 淡路市 (10/17)
午前には平岡農園にてみかん狩りを楽しみました。「初めてみかん狩りに来た」との声も。午後は、昼食の後、要約筆記を見ながらの交流。ある女性は、「聞こえる人ばかりのサービスでは、聞こえない人は放ったらかしになる。今日みたいに書いてくれたらよくなるのにな」と話していました。



スマホを楽しもう(洲本市山手会館)

聴覚障害者社会生活教室 (10/5)
県立聴覚障害者情報センターと共同主催でスマートフォンの学習会を開催。
東京から専門の講師が来られ、使い方について指導していただきました。初めて操作する方も多く、人気のアプリ等を見ながら興味深々、タブレットを操作して楽しんでいました。

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

**とことん意思疎通
徹底的に学ぼう!**

淡路四団体あいのり学習会が10月13日(日)、淡路ふくろうの郷で開かれ、淡聴協、手話サークル、通研、ふくろうの郷職員等40名が参加しました。前半は、ふくろうの郷施設長大矢暹氏の講演。後半は、立命館大学教授峰島厚氏の講演でした。

大矢氏は「人にはみんな意志がある。でも、伝えたい相手や伝える手段がなければ、伝えることはできない。その人に寄り添い意志を引き出すことが意思疎通支援。それができてこそ本人の通訳要求も引き出される。」と話されました。



▲ 言わないから、意思がないのではなく、どんな人でも意思は必ず持っている。意思決定できるように支え、意思を引き出していくことも大事な意思疎通支援である、その前提となるのは信頼関係、と峰島氏。

ろう者の思いに寄り添い活動することを再認識

峰島氏は、総合支援法に盛り込まれた「意思決定支援」「意思疎通支援」が、手話通訳者の間には当たり前のようになってきており、他の障害の支援にも生かすことができる。手話通訳者は単に言語を通訳するだけでなく、ろう者の立場に寄り添って思いを引き出し本人の意思をくみとつてきた。ふくろうの郷建設運動がその表れ、と。

私たち手話サークルが普段の活動の中でろう者に対する理解を深め、信頼関係を築いていることを評価され、嬉しく思うと同時に今後、手話サークルでしっかり仲間づくりをし、ろう者の生活を知ることの大切さを伝えていかなければ、と思いきるのか? 継続的な支援がで

た。今回の学習会は、自分たちの活動を見直す良い機会になりました。(手話サークルあわじ 安木)

参加者の感想

● 登録通訳者の派遣範囲の中でめざしている意思疎通支援ができるのか? 継続的な支援がでるのか? 今後期待したいです。

● 手話通訳の奥深さを改めて考えさせられた。単にことばを伝えるだけでなく、本人の生活背景を含めて問題解決を図るための通訳にならないといけないということは、今まで通訳者の方としての基本だと学んできた。それが他の障害者にも当てはまるのはとても嬉しいが、人的な資源が不足している。

● 意思疎通、意思決定、意思伝達ということについて改めて考える時間になりました。相手が本当に求めるものは何か。追求し寄り添うことの大切さを改めて実感しました。

● 時間をかけて本人とのコミュニケーションが充分にできていないと支援も難しいと思います。

続・地域を語る

第59号

村のエピソードその2 離縁状の五合桝ごんごうます

れ話になってしまいました。それにしても「おまつ」は「他所へ行くには別れの印がなくて困ります…」とのこと…。

「おまつ」の言葉に当惑顔の源五郎「お前も承知のとおり私は、三下り半はよう書かん、困った困った」と考え込んだ…。

しばらくして、そこは頓智男の源五郎、スコスコと台所へ行って五合桝を持ってきて「離縁の印じゃ…」と「おまつ」に手渡した…。

五合桝を手にした「おまつ」、合点が行かず「源五郎さん、この桝もらったら、明日から世帯に困るでしょう…」。

それにしても五合桝が離縁の印とは解せません」と即座に問い正すと源五郎はすかさず「一生(一升)の別れじゃ」と頓智達妙に「おまつ」に言うて一生の別れとなったという世にも不思議な離縁状の五合桝」

明治は5年(一八七二)むらのあるところに源五郎という40歳になる独り者が住んでいました。魚売りをしながら、むらむら回っていました。とても働きのもので、そのうえ、頓智奇才な男で、多くの人たちを笑わせたり、驚かせたり、楽しませていました。ある年並に、勧められるままに「おまつ」という嫁をもらい、仲よく暮らしていました。ところが、4年、5年が過ぎ、子どもが生れないので、ある日、源五郎が女房に「子どもが生れないのはどうしたもので、この話をした…」

すると、「おまつ」も、「気の毒にたえせんから、お互に仲よく別れてはどうだろうか…」心のうちを話し、とうとう別

※地方史の新研究 中川原村史より引用

かわいいお友だちと楽しく交流

洲本第一小学校との交流

10月18日に洲本第一小学校4年生の皆さんが遊びに来てくれました。最初に自己紹介を始めてもらったとき、子どもたちは緊張している様子でしたが、お昼休憩の短い時間にあつという間に打ちとけて指文字の表を一緒に眺めて手話を覚えたり、筆談を交えてお話されていました。午後からはグループに分かれてベビーカステラを作りました。



▲ベビーカステラ、おいしく焼けたかな？

入居者の渋谷さんは恥ずかしがり屋さんであり行事も参加なさらないのですが、自己紹介の間は子どもたちが手話でゆっくり話す姿をにこにこ見守っておられ、お昼を食べた後、真っ先

に戻ってこられ交流されています。そしてベビーカステラを食べ終わると「交流、楽しかったです。ありがとう！」と挨拶をされました。子どもたちの元気な姿に負けないくらい入居者さんたちも楽しそうにお話をされていました。バスを見送る時には、お互いにいつまでも手を振っていました。

(生活相談員…小林)

いつもご支援ありがとうございます



伊達直人様寄贈のふくろうの置物、4体増えてファミリーになりました。

11月1日、洲本市社会福祉協議会を介してわらじ作りの実演をしていただいたうえ、こんなにかわいいわらじをいただきました。



作品紹介

ふくろう大学

書道講座

10月22日



「音の音」 柴木義嗣さん(67歳)

「ふくろう新聞をもっと読みやすく」の声にお応えして、来月号から文字が大きくになります。